

活彩!保健大学だより

AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

第2号/平成12年8月1日発行 青森県立保健大学広報誌



平成12年度青森県立保健大学入学式

CONTENTS

新入生歓迎のことば/新道学長挨拶…………… 2	教室(領域・分野・職域等)紹介/看護学科…………… 14
副学長及び看護学科長挨拶…………… 3	教室(領域・分野・職域等)紹介/理学療法学科… 15
理学療法学科長及び社会福祉学科長挨拶…… 4	教室(領域・分野・職域等)紹介/社会福祉学科… 16
人間総合科学科目主任教授挨拶…………… 5	教室(領域・分野・職域等)紹介/人間総合科学科目… 17
新入生あいさつ…………… 6	学生自治会・学生団体紹介…………… 18
上級生からの歓迎のことば…………… 9	広田局長を偲んで…………… 20
開学記念講演/平成12年度第1回公開講座… 12	人事異動…………… 22
	編集後記…………… 24

[学長挨拶]

新入生歓迎のことば



青森県立保健大学学長

新道 幸恵

新入生のみなさま。ご入学おめでとうございます。若々しいエネルギーに満ちた164名の皆様を、ここに列席しております教職員一同心より歓迎し、本学のキャンパスで共に学びあえる日を過ごせることを喜んでおります。

木村知事並びに、山内県議会議員、橋本健康福祉部長、大島後援会会長の皆様には、公務ご多忙の中を本日ご臨席賜りましたこと厚く御礼申し上げます。また、ご父母の皆様方には、お子さまのご入学を心からお祝い申し上げますとともに、本日ご出席いただきましたことに心より御礼申し上げます。

新入生の皆様方は本日から大学生です。大学生時代というのは、社会に出て働いて、親から自立して、社会的な責任や義務を果たすことを免除された恵まれた期間であるとも考えられます。しかし、その代わりに、この猶予期間に、学び、将来社会に寄与し得る能力を修得すると共に、人間形成にチャレンジするという青年期の課題を達成させる義務を負うことを意味します。本学は、本日ここにご列席いただいております木村県知事の福祉日本一のご方針の下に21世紀に活躍する保健医療福祉の人材育成を目的として昨年開学した大学です。本学に入学されました皆様方は、本学の理念としますヒューマンケアの提供できる専門職となることを目指して、真剣に学ぶことの責務を担ったといっって良いでしょう。

この保健医療福祉の専門職は、障害を持ち、或いは病んでいることやその他の事情から心身共に健康な生活をするためには、援助を必要とする人々にかかわる仕事をします。言い換えれば、人を援助する仕事です。援助する人の能力が不十分で

あると援助を受ける人の命を損ない、或いは力を弱める危険性があります。人を助けるためには、それだけの力を身につけなければなりません。その力には、皆様方が目指す専門家として必要な知識や技術や態度が含まれます。しかし、そればかりではなくケアする相手と人間関係を形成する力が重要なものとして含まれます。そのためには、自分を知り、自分という人間を作る努力をすることです。大学生という猶予期間は、自由の精神において、自然や、書物への問いかけや、人々との交流によって、自己を探求する期間でもあるといえます。勉学に、遊びに、そして人々との交流に真剣に取り組むことは、予期せぬ成果を皆様方にもたらし、新たな自分の発見に繋がることでしょう。

21世紀は、看護、理学療法、社会福祉という専門職に機能の拡大をもたらし、色々な可能性を提供してくれる時代であると考えています。本学を選ばれた皆様方に、これからの学生生活の中で、それぞれが目指す専門職の魅力を見出し、アイデンティティを身につけられることを期待します。

終わりに当たりまして、八甲田山に囲まれた自然豊かなキャンパスにおける生活が、皆様方に多くの実りを提供しますことを祈念して、式辞と致します。

身を引き締めて

副学長
吉岡 利忠

本大学に選ばれた諸君は、他学部の学生に比べれば“モチベーションが高い”筈である。各人の進路を決めた時点では高いモチベーションがあって当たり前であるが、より専門性を必要とする看護、理学療法、社会福祉を志すものは更にこの意識を咀嚼していなければならない。入学数カ月経った今、“モチベーションを高く持て”と言われていたに違い無い。あるいは似たような事を機会ある度に耳にしているであろう。モチベーションとは動機付けと訳されるが、目的に向かう意識を高く持って何事にも対応すべき、という意味合いもある。

大学入試関係者のみならず多くの人達が我が青森県立保健大学の動向に注目している。ここで学んでいる学生達に対しても我々教職員に対してもそうである。様々な方面からの支援があって我々や諸君が本学で活動できるのである。学生は学生としてこれに応えるべく使命がある。4年という短い期間でそれぞれ学ぶべきことは山ほどある。それを効率よく、かつ知識や技能として身に付けるにはどうしたら良いのか。数年ではあったがアメリカの学生と共に生理学の勉強をしたことがある。一般的に彼らは物事に対して積極的であり能動的である。よく質問することもその特徴的なことであるが、表面的な質問ではなくかなり詳細に調べてきてからの質問である。このような姿勢がその学生を一回りも二回りも大きくする。なんに対してでも消極的、受動的では自分のものにならない。これからの人生の十数分の1の期間であるたったの4年間、自分の有している能力はどれほどあるのか試してほしい。そして同期の全員が一人の落伍者も無く卒業し社会に飛び出し、ここで得た総てのものを多くの人達に還元してほしい。

2回目の新学期

看護学科長
中村 恵子

木々のみどりが爽やかな季節、青森の厳しい冬が過ぎ多くの花が咲き乱れ、心が弾み青森の素敵さを味わう季節が到来しました。開学後、早2回目の入学生を迎え大学内は昨年とは異なる活気に満ちあふれています。キャンパス内のあちこちに学生が集う姿は微笑ましく感じるものです。

看護系の大学が年々増加し、平成12年4月には84校が開校になりました。それと共に、看護職に対する期待と責任が大きくなるのは当然のことでもあります。本学の看護学科では、4年間に修めなければならない人間総合科学科目、専門支持科目、基幹科目、展開科目は124単位以上です。この中で看護理論学、看護実践学、看護マネジメント論や看護問題を解決するために必要な科目が組み立てられており、それらを学ぶことによって自主的、自立的に研鑽できる看護職者として社会に出ていくための素養を培います。今年の入学生は103名でその中には社会人入試合格者2名、特別活動選抜入試合格者1名が入っています。昨年の入学者101名と合わせ看護学科生204名は、講義に演習に臨地実習に、あるいはサークル活動にと、時に苦しく、時に楽しくひとりでグループで多くのことを学んでいる様子が伺えます。また、本年から科目等履修生も加わり、教員研究室には学生の姿が多くなった様子が伺えます。教員研究室への出入りは学生の特権でもありますから、いつでも歓迎です。学生と教職員が共に育む大学であり、県内・日本・世界の看護界における実践者とリーダーが育つ大学の様子を、本広報誌にて逐次ご案内できるようにと、思いを新たにす新学期です。

保健福祉専門職を目指す 学生諸君へ

理学療法学科長
伊藤 日出男

専門職 (profession) という言葉には、自ら宣言するということがあり、昔から知的職業として医師、法律家・弁護士、牧師・聖職者の3職種があげられ、社会的にも高い評価を受けてきました。これらの仕事の良否、信頼性の程度は一般市民には判断の仕様がなかったために、これらの人々が自ら宣言し自ら条件付けをするのに任せざるを得なかったわけです。

それでは専門職の条件とは何でしょうか？それは、個人的な責任を伴う本質的に知的な仕事であり、高度に専門化した教育や訓練によって伝達可能な技術を持つことです。したがって新しい知識を得るために絶えず勉学に励み、また単に学究的、理論的なだけでなく目的達成のために絶えず実践を伴うことが必要です。さらに、自ら組織を作り集団意識を発達させながら、社会的目的達成のために努力することです。

一方、保健医療における「専門性の落とし穴」として次の事柄が指摘されています。技術偏重の技術者（いわゆる専門バカ）になってしまうこと。倫理的な危険性のある仕事であるために、人間の尊厳を見失い勝ちになり、また人の弱みに付け込むことのできる商売である、などです(砂原)。

これらのことを踏まえて、私は保健福祉専門職を目指す本学学生の資質として、次の3点を上げたいと思います。

- 1、個人として自立（自律）していること。
- 2、他人の痛みがわかること。
- 3、“いざ、ここ一番！”という時に、本当に頑張ることができること。

さて、皆さんは如何でしょうか？

「出会い」を大切に

社会福祉学科長
三栖 郁子

遅ればせながら、新一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。昨年の新入生は先輩もいなくて少々さみしい新入生でしたが、今年の一学生は、学生生活を送る上で身近なアドバイザーに恵まれ少しはゆとりのもてる大学生活を始められたと思います。どこの新大学でも、新しいシステムが整うまでいろいろ戸惑うこともあります。そうした中でも、やはり教育の根幹は、学生同士、学生と教職員との「出会い」の場にあります。この「出会い」の中でお互いに理解し合い、知恵をやりとりし、あるいは夢をふくらませて、お互いの努力で少しでもそれらを実現してゆくことによって、大学独特の「雰囲気」、一般には「学風」といわれているものが醸し出されてくるものです。

県立保健大学の「学風」、それは一旦出来上がってしまいますと、そう簡単には変えられないものです。かといって人為的、人工的に創り出せるものでもありません。しかし、その雰囲気は見事に私達の大学生活のあり方や皆さんの「学ぶ気力」に多大な影響を与えるものでもあります。そしてこの「学風」こそが、この大学のあり様をまざまざと映し出すものでもあります。私達は皆さんと共に、今、この「学風」を生み出しつつあります。私達は、本学の理念でもあり、学生、教職員一同にとっての目標でもある「地域に開かれた大学」にふさわしい、お互いの「出会い」を大切にしながら日々の積み重ねを忘れない大学生活を続けることが、結果として本学の「学風」づくりに寄与することになるのではないのでしょうか。

是非、お互いの「出会い」を楽しみ、そこから「学び」の刺激を与え合う、そのような交流の場を実現してゆきましょう。

新入生を歓迎する

人間総合科学科目
主任教授
赤坂 和雄

新入生諸君を心から歓迎します。新しい校風を作るのはあなた方です。最近学内どこを歩いていても学生で賑わってきて何となく大学らしい雰囲気を感じるようになりました。私自身も皆さんと同じように大学入学は新設でしたが古い校舎でした。しかも、開学して間もなくこの古い校舎は火災に合い、校舎は見る影もなくなりました。入学してわずかの間の出来事でした。炎の中に消え行く校舎とチャペルを何もするすべもなくただ呆然と見ただけでした。それでも焼け跡に一冊でも残っていないかと焼け焦げた本を探し歩いたことを今でも記憶が蘇ります。その後間もなく新校舎が急ピッチで建てられましたが、多くはプレハブ教室での授業でした。母校を訪ねると懐かしいプレハブもなく、どこかが違うという感覚は今でも抜けきれないでいます。でも、そうしたプレハブ校舎で育った私たちは、現在、社会のあちこちに責任のある重要な仕事で活躍している人がたくさんいます。

卒業後間もなく招かれた大学も不思議なことに新設大学でした。新設大学の学生であった自分を振り返り、今度は教員として自分が学生の立場にたって、新鮮な気持ちで学生に接したものです。32年間の長い大学教員生活でした。当時は私も非常に若く学生とはそんなに年齢も離れていず、ある時は対等な気分で学生と議論したことが蘇ります。

3度目の新設大学がこの青森県立保健大学でした。運命のいたずらとも思える気がすることもあります。いや、私ほど幸せな者はいないと考えべきかも知れません。新設の大学でこうしてみなさんと一緒に勉強できることになったのです。私としてはこんなに嬉しいことはありません。学業

ではつらいこともあるでしょう。でもそれを乗り越え、これからの4年間を頑張っていただきたいと思い、私の心からの歓迎のメッセージとします。



新入生あいさつ

保健大学に入学して

看護学科1年
土岐田昌幸

極度の緊張で迎えた入試から5ヶ月、不安になった合格発表から4ヶ月、希望をもって迎えた入学式から3ヵ月が、入学してからあつという間に過ぎ去ってしまいました。はじめの頃は、大学生という実感も持てていなかったことに加え、一人暮らしの忙しさで何もできていませんでしたが、最近、やっと大学生活にも慣れて、大学生活の楽しさや辛さを味わっています。

入試のときはじめてこの大学を見たとき、きれいな学校だなと思いました。入学してから、設備のすごさに驚いています。入試の前に抱いていたイメージよりもすごいので、これからの4年間ががんばっていこうと思っています。

ただ、不安だったのは男子が少ないことで一年の看護学科では、7人(103人中)学年では25人くらいしかいなく、そして、先輩方と合わせても50人くらいしかいないということでした。ですが、先輩方を見ていると男女ともに仲がよさそうなので、安心しました。

また、勉強の他にもサークル活動にも積極的に参加したいと思っています。そして、この大学には、先輩方の代と私達の代しかいないので、人数的には少ないですが、その分、先輩方との交流が多いと思うので、良い関係を築いていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。



自覚と誇りを持って

看護学科1年
山崎 歩

私はこの青森県立保健大学に入学してから、なかなか学生という自覚が持てませんでした。しかし、看護に関する多くの講義をうけ、演習を行っていく上で徐々に自覚が芽生えてきました。今、私は入学当時の想像以上にレポートなどに追われ、忙しい毎日を送っています。しかし、忙しいとはいえ一つ一つの講義はとても重みがあるので、充実した毎日です。講義の形式は先生によって違いますが、どの先生も工夫を凝らしていて分かりやすくなっています。特に、演習では先生が手本としてやっていることをデジタルカメラを使って、テレビに映像を映すことで、後ろの人もよく見えるように配慮されています。さらに、学生につき先生の割合が多いため、細かいところまで丁寧に教えてくれ、とても分かりやすいです。

また、Active Englishの授業はすべて英会話になっていて、とても楽な雰囲気楽しく学んでいます。少しずつですが、英会話が自然と身についていっている事を実感します。この授業は自発的に学んでいくようになっていたので、自然と学習意欲が湧いてきます。さらに、たくさんの豊富な機材を講義や演習にうまく活用しているので、とても恵まれた環境にいると思います。また、友達ほとんどが同じような目標をもっていて、協力し合いながら共に学んでいるため、友達は大きな力となっています。

講義をうけていくと看護の様々な面の新しい発見がたくさんあります。それは、学んでいく上でとてもいい刺激になっています。日々は目まぐるしく過ぎていきますが、確実に知識が身についていることを実感します。私は講義を通して看護の素晴らしさに会う度に、看護について学んでいることに誇りを感じます。私は、これからも青森県立保健大学生という自覚と誇りを持って、勉学に励んでいきたいです。

入学してから

理学療法学科1年
岩谷奈津子

平成12年春、入学試験の難関を乗り越え、私はこの青森県立保健大学に入学することができました。高倍率のうえに試験の結果にも自信がなかったため、合格と知った時には信じられませんでした。家族をはじめ、友人や高校の先生方もとても喜んでくれました。私が合格することができたのは、これらの人々の指導や励ましがあったおかげです。

大学生活がスタートしてからは初めてのことばかりで、いろいろと大変でした。入学してから間もなく解剖学や生理学などの専門的な分野の講義が始まり、高校の授業との違いにとまどってばかりでした。今はその自由な雰囲気だに慣れましたが、その分自分の責任が大きいということを実感しています。初めての一人暮らしにはたくさんの不安がありました。今では楽しく充実した毎日を送っています。

理学療法学科については、入学するまで「難しそう」「厳しそう」などのような固いイメージが強くてとても不安でした。実際にこの学科で毎日を過ごしてみると、勉強はやはりイメージ通り難しと思いましたが、雰囲気がとても良いと思いました。一学年20人しかいないため、生徒同士で仲が良いのはもちろん、先生方もとても親しみやすい方々だと感じました。また、先輩方とのつながりも他の学科より強いのではないかと思います。「毎日大学へ来るのがとても楽しい」と友達とよく話しています。

この恵まれた環境で自分の好きなことを学ぶことができるというのは、とても幸せなことだと思います。

これから4年間、この大学で自分の理想とする理学療法士像をしっかりと持ち、その理想を現実のものにできるようにがんばります。

大学生活への期待

理学療法学科1年
矢澤 正志

おはようございます。この春、青森保健大学2期生164人は無事入学することができました。大学生活の中で何をするのか、何ができるのか期待と不安がいっぱいです。思えば、あの受験勉強もこの大学のキャンパスを歩きたい一身でがんばったように思います。つらいこともありましたが、この大学に入り、充実したキャンパスライフを送るためにがんばってきました。

大学に入ったらどんなことをしようか、何のサークルに入ろうか、といったようなことばかり考えていたような気がします。そして、勉強も高校のやらされる勉強から、自分で発見・解決するような勉強をしたいと思っていました。今までと違った専門職の勉強はどんなことをするのかとても楽しみでした。勉強したことがそのまま将来の自分に返ってくる、高校とは違ってなんてやりがいのある勉強なのだろうと思いました。

また、親元を離れ、慣れ親しんだ土地を離れて生活していくこと、まったく知らない土地からやってくる友達とうまくやっていけるか、など不安もいっぱいありました。気分はまさに小学校1年生でした。見るものすべてが新しく、いろいろな発見もあり、新しい自分の一面が見られるような気がしています。

新しい土地、新しい友達、新しい学校、すべてのことが新しく、なんか気分まで新しくなった感じがします。この新鮮な気持ちを4年間忘れずに、卒業時には国家試験を見事164人全員で合格したいと思います。

入学してから3ヵ月

社会福祉学科1年
新谷 祥子

入学してから3ヵ月。福井から来た時はまだ寒さの残っていた青森も、もうすっかり暖かくなりました。何もわからない、知り合いもいない、この地での新しい大学生活に不安と希望を胸にしていた入学当時を思い出すと、不安こそ消えたものの、毎日が驚きや発見の連続でまだまだ慣れることができません。

この大学で、まず最初に思ったことは、設備の面で充実しているということでした。エレベーターや車椅子専用のトイレなどは、バリアフリーを考えているなあと思いました。けれども、実際に自分が車椅子に乗って学内を回ってみると、ほんの少しの段差が障害になったり、扉が重かったりと、普段感じないさまざまな障害を発見しました。私たちには感じないけれど、障害を持つ人々にはまだ多くの障害があるのだということを、身をもって体験しました。

私は今、社会福祉について学んでいます。人の役に立ちたいと思い、社会福祉を学ぼうと思って入学してきた私でしたが、先生方の様々な講義を聞いているうちに自分の考えの浅さと社会福祉の奥深さを知りました。そして、最近、ひとりひとり考え方が違うように、社会福祉についてもこうあるべきだという解釈はありえないのではないかなと思うようになりました。私にはまだ、自分なりの解釈がありません。これからますます多くの人の意見に耳を傾け、実習などの経験をつんで、社会福祉について自分なりの考え方をもてるように努力していきたいと思っています。

青森県立保健大学に入学して

社会福祉学科1年
工藤 順

私たち新生も青森県立保健大学に入学してはや3ヵ月がたとうとしています。授業や学校生活にも慣れ、楽しい大学生活を過ごしています。

そもそも私がこの大学に入ろうと思ったのは、ここ最近、新聞やテレビで報道されている社会福祉について、その現状は一体どうなっているのかを知りたいということが一番の理由でした。確かに現状を知るだけであれば施設職員という道もありましたが、今ある現状を少しでも良い方向に導ければと思い、この大学で社会福祉を学び、将来少しでも人の役に立てればよいなと感じて、この大学に入学しました。

この大学に入って驚いたことは、施設の良さでした。とにかくきれいでビックリしました。こんな環境の中で勉強できるなんてほんとに運がいいなと思いました。また、先輩方もとてもやさしく、私たちが勉強などでわからないことがあれば親切に教えてくれて、とても助かっています。そして何よりも驚いたことは、その道の第一線で活躍している先生方がたくさんいるということです。第一線で活躍しているだけあって、授業も大変わかりやすく、集中できます。

これから、私たちも体験実習など学校外へ出て行くことになると思います。その時に困らないためにも、様々な知識を吸収したいです。そして、この学校に入って本当に良かったと思えるように頑張っていきたいと思っています。



上級生からの歓迎のことば

二十一世紀旗手

看護学科2年
葛西 孝太

『光陰矢のごとし』とありますが、一年生が入学してから、早いものでもう三ヶ月が経とうとしています。遅ればせながら入学おめでとう。そろそろ一人暮らしには慣れましたか？寂しくてお母さんに電話していませんか？（してもいいんですけど）青森の言葉に苦しんでいませんか？よい友人にはめぐり合えましたか？なにより、大学生活を満喫していますか？せっかく大学生になったのですから、自分のやりたいことを思う存分やってもバチはあたりません。でも、くれぐれもハメははずし過ぎないように。

さて、大学生になった私たちに求められるものは「責任」と「積極性」です。親元を離れ、一人暮らしを始め、社会に段々と適応していかなければならないこの時期に、私たちは「責任」を身に付けなければならないのです。大人になるということは、同時に責任をとるということでもあるのです。「積極性」は、将来医療に携わる職に就くだろう我々には不可欠なものだと思います。積極的に相手に働きかけて、相手のことを少しでも多く知ること、他人に興味を持たなければ、医療職は勤まりません。それに、我々の大学はまだできてないので、これからの大学の将来も我々の双肩にかかっていると言っても過言ではないのです。

サークルにしろ、何にしろ、積極的に働きかけなければ何もできないのです。不毛な四年間は苦痛以外の何物でもないはずです。どうか、他人の意見に流されることなく、確固たる自己を持って、自分を見失わないようにこの四年間を過ごして欲しいと、私は思います。

来る二十一世紀は、我々が先頭に立っていく時代になるはずです。医療現場でも、社会でも、大人として、責任を持って行動していかなければならないはずです。モラトリアムを無事に乗り切って、確かに必要とされる人間になりましょう。

自分なりの楽しみを

看護学科2年
芳賀 深雪

入学して早くも三ヶ月が経過し、緊張感も薄れ、大学の生活にも慣れ始めたことと思います。大学の生活は、かつてない刺激となって自分自身に降りかかってきたことでしょう。今までの規則とは異なった空間で、専門科目を学ぶ新鮮さや、先生方の十人十色の授業に面白さを感じ始めているのではないのでしょうか。そしてまた、[大学]そのものに興味を持ってきていることと思います。

一期生であった私達は、先輩がいないというハンデと共に歩んできました。それは、物品や機材を自由に使える反面、どうやってサークルの土台を作っていけば良いのか、どのような大学を創り上げていくのかといった課題との衝突でもありました。その中で、いつしか校内が騒がしくなり、そして何よりサークル活動が活発になったことで、二期生を迎えたのであるという実感を持ち始め、ここから共に新たに大学の創造を積み上げていくという希望が生まれました。

大学は自分のやりたい事を実施してみる場であり、専門的分野の学習の場です。学習はもちろんの事、自主的にサークルを立ち上げるなど自分なりの有意義な大学生活を目指してください。

しかし、自由な時間がないと嘆いている人もいるかもしれません。確かに、大学のカリキュラムは量が多く、未消化のまま次に進んでいく事も多々あります。しかし、その考え方もあなた次第です。大学とは型にはまった規則は特にありません。自分が納得し、解釈できれば人と同じ回答である必要はないのです。万が一、授業に対する悩みや相談事などを抱えてしまった場合、アドバイザーとして先生や一期生を活用するのも一つの方法です。あなた次第で大学生活は変わります。

大学は楽しさを待つ場ではありません。自ら楽しさを作り上げる場所です。その楽しさの結晶が後に大学の特色となることを夢見て、今は青春を謳歌し、充実した大学生活を目指しましょう。

友達になろう

理学療法学科2年
佐々木梨香

本学に2期生が入学して、3ヵ月が経ちました。2期生の皆さんは親元を離れての生活や本学での生活にも慣れ、学科や出身地の枠を越えて多くの友人もできた頃だと思います。それぞれ本学を志望した理由や目指すところは異なっていますが、これから長い時間を共に過ごしていく友人は多い方がいいものです。この際、1期生2期生という枠にこだわらず、多くの友人を作りましょう。

機会は多くあると思います。ゼミや合同講義などを通じて他学科と、またサークル活動などから1期生と。こういった人脈は自分が苦しい時や辛い時、共に楽しんだり喜んだりする時はもちろん、試験前などに大きな威力を発揮してくれます。また本学の先生方はすばらしい方ばかりです。専門的なことをはじめ、雑談や悩みについても応じてくださいます。特に私の所属する理学療法学科は、他学科に比べ学生が少ないため、現在、単純に計算すると学生：先生＝2：1です。これはかなり恵まれた環境だと思います。

これから施設での実習があり、講義や実習はどんどん内容が濃く、ハードになっていくと思います。そして自分の進もうとするものの輪郭が徐々に見えてきて、嬉しくなったり、このまま進んでいくことが怖くなったり、悩んだり落ち込んだりすることが何度もあると思います。しかしそれは友人や先生方などと話をしたり、考えを聞いたりすることで解決のきっかけを掴むことができます。特に他学科の話を聞くと、違った方向から考えを進めることができるようになると思います。

私に限って言えば、2期生とは「先輩・後輩」のような関係ではなく、互いに学び合っている「友達」になりたいと思っています。

これから共にがんばっていきましょう。

ようこそauhwへ

理学療法学科2年
林 学

去年まで学生数が161名だった本大学(Aomori University of Health and Welfare)に、今年新入生164名が入学したことにより、約2倍の325名になりました。去年までの大学内は少し物寂しいものがありました。しかし、1年生が入学したことにより、満席で外のベンチで食べざるを得ないほどになりました。大学全体が去年よりも明るくなり活気があふれていると思われま

す。青森県立保健大学は、ヒューマンケアの提供できる保健、医療、福祉の人材育成を目標としています。ヒューマンケアは将来必ず求められると思います。また、どこの大学にも負けない設備、機器が揃っているだけでなく、先生方もそれぞれの分野でトップクラスの先生ばかりです。ですから、安心して勉強に取り組んでほしいと思います。

私たち2年生にとって新入生が入学したことで変化したことは、サークル活動です。特に2年生の男子は26名しかいないために、思うように活動できなかったことが多かったのです(特にサッカーは普通の試合をするためには少なくとも22人が必要となりますが、5対5のミニゲームをするのが精一杯でした)。しかし、新入生が入学したことにより大幅に人数が増え、去年よりも積極的な活動ができるようになりました。新入生がサークル活動に参加してくれることは、2年生にとってはうれしくて仕方ありません。勉強はもちろん大事ですが、それだけでなくサークル活動に積極的に参加してほしいと思います。

最後に、何か困ったことがあったら是非2年生に相談してみてください。私たちが1年間で得られた知識が少しは役に立つと思います。

自分発見

社会福祉学科2年
葛西 孝幸

遅くなりましたが入学おめでとうございます。皆さんが入学してから数ヶ月が経ち、そろそろ大学の授業の感じがつかめてきたことと思いますが、皆さんの想像していた大学生活よりも辛いのではないのでしょうか？授業も思った以上に多く、何よりもレポート提出が多すぎて、他のことができないという話をよく耳にします。辛いとは思いますが、後期になるにつれて少しずつ余裕がでてくるはずなので頑張ってください。

さて、友達はたくさんできましたか？初めのうちはなかなか上手くいかないかもしれません。私たちも皆さんと仲良くなりたいと思っていても、先輩がいない分、皆さんにどのように接していいのかわからず苦勞しました。しかし、あまり深く考えずにサークル活動やイベントをしているうちに自然に仲良くなり、先輩と後輩の隔てなく楽しく話せるようになりました。このように皆さんが入学してくれたことで、私たちも色々なことを学ぶことができます。各学科の専門的知識は、この大学のすばらしい設備やすばらしい先生方のおかげで、どんどん学ぶことができると思います。ですから将来、大半が対人職に就くであろう皆さんには、専門的知識も大切ですが、先輩・後輩関係や友達関係の中で多くの人に出会い、そして人との接し方、さらには自分とは何かということなど、色々なことを学んでもらいたいと思います。最後になりますが、みなさんにとって楽しく有意義な大学生活になることを願っています。

新入生の皆さんへ

社会福祉学科2年
長谷川敦子

暑くなってきた今日この頃、皆さんは入学してから3ヶ月が過ぎましたが、大学の生活はどうですか？1年生の皆さんは入学したばかりの頃もさほど緊張した様子も見られず、むしろ私達の方が新入生がいることに慣れなくて、緊張気味だったように思ったことを覚えています。去年は1学年しかいなかったの、学校もとても広く感じられ、大学祭やサークル活動も少しさみしい感じがしていたのですが、今年は新しいサークルもたくさんでき、人も増え、にぎやかになってとてもうれしく思います。また、社会福祉学科の1年生とは交流会も開くことができ、一緒に騒いで楽しい時間が過ごせ、また機会を作り、あのような時間が持てれば良いと考えています。今年でまだ2年目のこの大学ですが、今までは私達だけしかいませんでしたが、今年からは1年生もいるし、1年生は積極的な人が多いように思えるので、これから一緒にいい大学を作り上げていければ良いと思っていますので、よろしくお願いします。



開学記念講演

◎日時：平成12年6月5日 12：30～
◎場所：青森県立保健大学講堂

[平成12年度公開講座/第1回]



日野原 重明 (聖路加国際病院理事長)

◆プロフィール

- M44.10 山口県生まれ
- S 12. 京都大学医学部卒業。
- S 17. 京都大学大学院(医学)修了。
- S 26. 米国エモリー大学に一年間留学。
- 現職
- S 48.4 財ライフ・プランニング・センター理事長
- S 49.2 聖路加看護大学学長-理事長
- S 50.2 旭川医科大学参与
- S 50.12 佐賀医科大学参与
- S 59.2 学校法人聖路加看護学園理事長
- S 60.5 財笹川医学医療研究財団理事長
- H 4.9 財笹川記念保健協力財団理事長
- H 7.4 全日本音楽療法連盟会長
- H 8.3 財聖路加国際病院理事長
- H 8.7 聖路加国際病院名誉院長
- H 8.11 財聖ルカ・ライフ・サイエンス研究所理事長
- H 9.2 日本総合健診学会名誉会長
- H 10.4 聖路加看護大学名誉学長
- H 11.7 日本医学教育学会名誉会長

全人類的な健やかさの意味するもの

～healthという言葉の語源をたどって～

Healthという英語は、健康と訳されている。WHOは長年の健康の定義を改めて、これにspiritualな内容を加えることが今討議されている。

というわけは、healthの語源は古いAnglo-Saxonの英語ではhālという。これは、全体(whole)とか、聖なる(holy)ものとの意味を含んでいる。

最近 holistic medicine、訳して全人的医療という表現がよくされているが、これは physical, psychological, mental, spiritual といった面を含めての人間の心身両面を含めた領域を含めた医療を言うのである。

このような医療であってこそ、医療を受ける人の QOL を豊かにさせることができる。しかし、これは単なる各専門領域に別の分業ではかなえられない、各種の医療職が同じ傘の下で融合した働きをしなければ本当の全人的医療は具現されない。では、21世紀の医療職はどう役割を模様替えすべきか。



座

基本テーマ「こころと健康」
「こころ豊かに健やかに」

演題 全人的な健やかさの意味するもの
「こころとこころのつながり」
講師 聖路加国際病院理事長 日野原 重明

反響

東奥日報夕刊(H12.6.15明鏡欄より)

明鏡

日野原先生
講演に感銘

◇先日行われた県立保健大学の公開講座を受講したいへんさわやかな心持ちになりました。私は保健大学の近くに住んでいますが、大学というとなんだか構えてしまい、これまで一度も足を運んだことがありませんでした。しかし、今回は医療の分野で広く活躍されている日野原重明先生が講演なさるので、思い切ってお出かけしてみました。

◇「全人的な健やかさの意味するもの」という演題でしたが、青森の風土そして今という時代から話を始め、たいへんわかりやすく、時にはユーモアを交え闊達(かつたつ)にお話になります。お言葉には拍手がわきました。



◇先生は、生きがいを感じるものが健やかさであると定義され、病気や障害があっても生きがいを感ぜられれば健やかであると説いてくださいました。こう考えられるのは他の動物にはない人間の特性、だそうです。ふだんは病気のため寝たり起きたり、の生活を送っている私にとり、この言葉はとても勇気づけられるもので、本当にお話を聞きに行つてよかつたと思えました。

◇たくさんの学生さんたちも聞いていましたが、将来、医療や福祉に携わる皆さんが人間性あふれる職業人として活躍されますようお願いです。また、保健大学が今後とも地域との交流を大切に、地域に根差した大学であつてほしいと思つています。(青森市・水谷のり子)

基礎看護学・看護管理学講座(教授/上泉和子)

「天気よさそう。ぱっとみ若いねえ。〇〇先生かわいい。etc」これはこの写真を学生に見せた時の感想です。写っている本人達の思惑は如何でしょうか。1枚の写真の見方にもいろいろあります。皆が同じポーズをとっているかと思いきや、いまいち乗り遅れている者もあり、かといって揃っているわけでもありません。それぞれの手の向き、高さ、にっこり笑う等様々です。他にも何処でどのように育ち、意外な趣味や涙したこと、没頭している研究等も知ろうとすればするほど奥の深い(?)教員ばかりです。このように豊かな個性を持った私達はそれぞれの目でいろんな面から学生を覗いていきます。同時にこの見方は一人の人間を多面的にとらえていく「看護の対象のとらえ方」にも通じます。

基礎看護学は、看護に共通する基礎的理論と、看護実践の基礎となる援助技術や健康状態を把握するための方法を学ぶ、看護学の礎となる領域です。具体的に「看護学概論」では、看護の本質、対象の理解、健康の概念、看護の役割、看護制度・看護教育等について教授します。「看護援助方法論」では、看護を安全・安楽に提供することを目的として、呼吸・循環・体温を整える援助をはじめ、環境、姿勢、活動・休息、身体の清潔を整える援助、治療や検査を受ける患者の援助等について、その具体的な方法を根拠となる知識と関連させ、看護技術の成果と患者の身体に与える影響等も含めながら学内演習等を通して教授します。その他に看護実践に必要な看護理論の理解と問題解決の思考プロセスを学ぶ「看護理論と看護過程」、看護の視点で患者の体を診る「ヘルスアセスメント」があります。そして授業と平行して、今まで学んできたことを生かしながらかけてきたことと実践を結びつけていけるよう、「看護体験実習」「基礎看護実習Ⅰ」「基礎看護実習Ⅱ」という臨地実習を行います。

この領域が取り組む主な研究としては、PBL(Problem Based Learning)という、学習者主体の問題解決型教育方法の導入と、教材としてのシナリオ開発に取り組んでおり、このテーマはこれからも継続していきます。また今年からは新たに「技術革新の普及(Diffusion of Innovation)」について、特に看護ケア技術に関するイノベーションと普及過程、及び普及に関連する要因を明らかにすることをテーマに、勉強会を開始しました。

次に看護管理学についてですが、『看護管理学』という言葉は聞き慣れないと思います。この領域は、医療や福祉をうける人々へ質の高いケアを提供するために、看護



を提供するシステムの構築、看護サービスの組織化、組織の運営とマネジメント、リーダーシップ、人々のニーズと利用できる医療サービス・人的資源・社会資源等を結びつけるケアマネジメントについて探求する領域です。来る21世紀に大学卒業者は、看護管理経営者として、看護行政の担当者として、そして高度の医療をになう施設の実践的リーダーとして活躍することが期待されており、看護管理学が担当するマネジメントやリーダーシップの学習は重要であると考えています。担当する科目は「看護マネジメント論」、「看護マネジメント論実習」、「ケアマネジメント論」、「ケアマネジメント論演習」です。関心を持っている研究テーマは「看護ケアの質の評価」で、現在看護ケアの質を評価するためのツールの開発に取り組んでいます。医療機能を組織的に評価する活動にも参加しています。

私達は看護婦でもあり、学生と共に看護を学ぶ者として教育・研究・趣味等に日夜努力を惜しまないメンバーです。

〈基礎看護学領域〉

教授：島崎ライダー玲子(13年度着任)

助教授：小山敦代

講師：角濱春美、坂江千寿子

助手：藤本真記子、佐藤 愛、福井幸子、三津谷 恵、木村恵美子

〈看護管理学領域〉

教授：上泉和子

助手：阿部俊枝、杉若優子(13年度着任)

神秘的な世界の中で!!

理学療法学科基礎医学生理系グループ

どこまでを"生きて"いるというのか!?

副学長(教授) 吉岡利忠

筋肉から一本の筋細胞(筋線維)を分離してこれまでに多くの生理学的実験をしてきた。この場合、筋線維を生かした状態しておくにはいろいろな工夫が必要になる。

よい環境においておくと、電気刺激、物理刺激、化学刺激に反応して筋線維の収縮弛緩を記録できる。筋肉を取り出し、それから筋線維を分離された動物は、安楽死させられてしまっているが、筋線維はこのように"生きて"いるのである。

今度は細胞膜を剥がしてみる。これも大変な技術と工夫が必要である。細胞の中の内容だけになってしまうので、筋細胞の場合は、収縮に関する蛋白系と細胞内小器官などが残る。こんなにシンプルな系にしても収縮現象が起こるのだから、まだ"生きて"いる。

さらに、収縮蛋白系のみを試してみる。これでもちゃんと収縮する。分子レベルの状態にしても"生きて"いるので、死んでしまったということはなかなか言うことができない。"死"とか"生"は奥の深いものなのである。

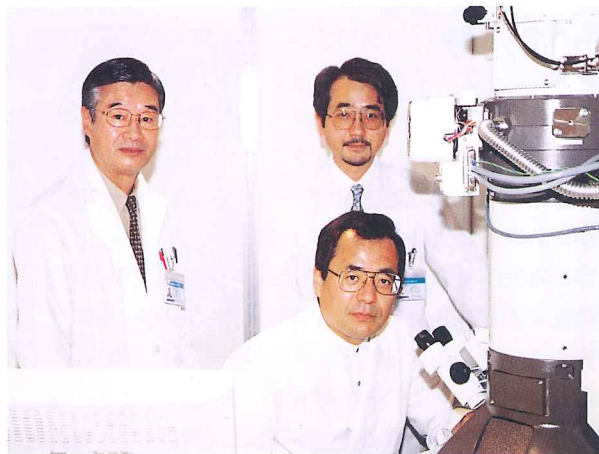
脳波の高周波成分に関する研究

助教授 尾崎 勇

私の研究テーマは、大脳の電気現象を非侵襲的に頭皮上から記録・解析することによって、脳の秘密を少しでも明らかにできないかというものです。

本学に赴任するまでは、正常者及び神経疾患患者を対象に、手や足に弱い電気刺激を与えて、20~40ミリ秒後に大脳体性感覚野に現われる皮質の反応を分析しておりました。大脳に到達するまでには、神経インパルスは脊髄や脳幹を経由しますので、それらの反応も同時に分析することで、病変の局在診断に役立てておりました。このような誘発脳波あるいは自然脳波の周波数成分は50Hz以下とこれまで考えられてきました。しかし、私は大脳の活動はもっと速い周波数(300Hz以上)を含んでいるのではないかと考え、ここ2~3年研究に取り組んでおります。少なくとも一次体性感覚野の反応は600~800Hzの成分を含んでおりますし、刺激に注意を向けた場合はそれに続いて、400Hz前後の反応が100ミリ秒位まで現われるようです。

このような高周波はコンピュータの clock 周波数のような役割をしているのかも知れないという仮説を抱いて現在研究を進めているところです。



本学透過型電子顕微鏡を囲んで。手前が鈴木教授、奥の左が吉岡副学長、尾崎助教授。

正常と異常のはざままで!!

教授 鈴木孝夫

20年余り、医学生とともに人体解剖という極めて貴重な体験をさせていただいた。学生は教科書の記載「正常」のみが真であり、記載のない形態「異常」をなかなか理解できない。日々の実習を通して、徐々に教科書の記載の無意味さに気づき(ちょっと大げさ)、真の師を自ら解剖している御遺体だと知る。全身の形態学的特徴が教科書通りの御遺体など見たことがない。

「正常」とはなんだろう。これはただ単に出現頻度が高いだけのことであり、最も一般的な例ということ。「異常」とは出現頻度が少ない例であり、極端に低いと極めて希少価値が高い。教科書的には異常でも、当の御本人に生命の危険がなければ"余計なお世話"ということになる。正常例の形成過程を発生学的に考察すると、異常例についても必ずその由来を説明できる。発生学こそ真の形態学であると感じてきた。

今後は御遺体と接する機会は極めて少なくなる。果たして、ミクロの世界ではどうだろうか?

法律・女性問題・開発教育分野

法律分野

助教授 木幡洋子

「社会福祉学科で法律？」などという野暮なことは聞かないでください。人間がつくった「社会」につきものなのが法律。「社会」が責任をとろうとする「福祉」に法律が関わらないわけがないじゃないですか。などという言葉の遊びをするまでもなく、法律って、ほんとに人間くさいものなのです。私の信条は「福祉は人間学」。人間の、人間による、人間のための施策が福祉だと思っています。こんなことをいう私の法学は、当然、人間学。単なる解釈には目を向けず(?!)、ひたすらどうい風にな人が困っているのか、それをなんとかするためにはどういった法律のあり方が妥当なのか、などということばかりを考えています。ですから、私の法学には、歴史はでるわ、人間ドラマはでるわ、いつのまにか法律の条文は一条もでることなく授業が終わってしまう……。などということもよくあること。ええ、一条の背後にあるこうした人間への深い理解こそが、その一条を人間の幸福のために運用することに連なり、人間の幸福を考えた時に必要な法律をつくり出す法としての力を産み出すと思っているのです。



女性問題分野

助教授 佐藤恵子

専門は、女性学、女性問題論。現在の研究課題は、女性問題の理論化と体系化及び社会福祉分野における女性福祉論の構築です。



出身地は名古屋市ですが、東北大学の大学院で先輩だった夫と結婚後、夫の転勤に伴って弘前市に移り住み24年になります。

全く初めての土地で2人の子供を出産し、約13年間専業主婦の生活を送ったのですが、その中で育児ノイローゼや夫との意識のズレ、生き甲斐感の喪失など様々な問題に直面しました。それらの問題を通して、如何に自分自身が人間として自立していないかを思い知らされ、そ

れまでの生き方の見直しを迫られました。そのような中で女性学と出会い、私がぶつかった問題が女性問題という社会問題であることを知り、それが女性問題に取り組む出発点になりました。

「性別や年齢、障害の有無などにかかわらず誰もが自立して生きることができ、しかも互いの自立を尊重しつつ、支え合って共に生きることができる」そんな社会を実現することが私の夢であり目標です。

開発教育分野

講師 千葉多佳子

グローバル化が進捗している昨今、人々の幸せは単なる1国の枠を越え、世界規模で考えなければならなくなってきている。まして、日本をはじめとした欧米の経済発展がいわゆる開発途上国の人々の人権を脅かして築かれているものなら、自分の幸せを守る事のみを生活の中心に据える事はできない。

本大学の3学科の1年生を対象とした人間総合科学演習では、開発途上国の「貧困問題」を考えるために、アフリカを材料に、異文化を理解する心、他者を受け入れる心、そして人間を理解する心の開発を狙いにしている。この演習を希望して履修している学生だけあって、学習意欲、参加意欲は高く、学生の演習に対する評価も肯定的である。演習終了後の「ゼミ論集」は、この演習で身につけた事をいつも思い出して欲しいという願いを込めて作成している。



アフリカの民族衣装を着てみた学生たち

人間総合ゼミ紹介(教授/羽入辰郎)

人間総合で行っているゼミというものがどんなものであるか余り知られていないと思われるので、今回はその紹介を致します。と申し上げても、実は私自身、他のゼミの様子は学年最初のゼミ・ガイダンスでの各先生による説明以外には全く存じあげない状態にありますので、結局は自分のゼミの様子を紹介するしかないという「どうしようもないゼミ紹介」になります。人数は今は十人です。まず女子を三等分します。その際、学生の意見には全然耳を傾けずに出来るだけ知らない同士で強引に三等分します。その後、本学では貴重な存在であります男子を出来るだけ均等にばらまきます。読んでいるのは『平気ですそをつく人たち』という一見「飛んでも本」風の題名の付いた、実は心理学者の書いた真面目な本です。三つに分けたグループの一つを攻撃側、一つを防御側、残りの一つは攻撃対防御側の応酬が終わるまでは発言してはいけないグループとします。ルールは次のようになります。二頁分くらいの分量の部分に対し、攻撃側はどんな質問をしてもよい。他方、防御側はどんな屁理屈を付けても良いからその全てに答えねばならない。グループ内での相談は自由。発言中一人がつかえて沈没したら、同一グループの他の人間は責任を持って援護しなければならない。こうした血も涙もない連座制によって、内気で発言出来なかった子でも発言するようになります。なぜなら活発に発言しかけて途中で立ち往生、敢えなく果てた仲間を助けねばという意識が働くと、不思議なことにかかなり内気な子でも発言するようになるからです。しかもこういう内気な子に限って実はかなり頭は良く、慣れてくると自分のグループのためとなれば、底意地の悪い質問、到底答えられないことが分かっているような質問をおとなしそうな顔をしながらいくらでも出してくれます。レポートもこういう子に限って大胆不敵。さて、最後まで誰も答えられなかった質問は誰が答えるのか。まず発言を封じられていてフラストレーションのたまっていた第三グループに聞く。但し、ここまで答えの出ない質問には当然答えなど出てこない。結局、ここで教師たる私が答えねばならなくなるのであるが、私とてそれほどはかばかしい答えを持ち合わせているわけではない。「これは意識的とも無意識的ともどちらとも取れますね。著者は無意識的と思っているようですが、そうとも断定出来ませんね」などという逃げの答えで許してもらえない。こいう形でやっていくと、毎年5月くらいになる

と学生達の顔が高校生のそれではなく、明らかに大学生の顔となっていく。そしてどんな内気な子でも発言するようになる。不思議なことだけれども、自分で考えて、自己責任で発言し、それをすることで大学生の顔になるのかな?面白いものだな…と見て見ている。学生達の方は気付いていないのかもしれないけれど。今まで生きてきた知恵をフル回転させて、脳味噌に汗する時間となる。なかなか教師も議論に付いてゆくのが大変で、質問内容を板書しながら、何だこの質問、昨日下読みしていた分からなかった部分じゃないか、やばいなあ…などと考えながら、「はい、防御側のBグループ、そろそろ相談始める!」などと口でごまかしながら、テキストは全て理解していてもはや何も考える必要もないような悟り澄ました顔をしながら、必死に考える。私が何を考えているかということには幸いにも学生達は気付かない。

12年度人間相総合ゼミ一覧

- ◇外国語としての日本語研究
- ◇環境問題、健康問題について調べ、考え、まとめよう
- ◇芸術と創造
- ◇ウソ800
- ◇危機の中での倫理学
- ◇「死とどう向き合うか」: 死生学へのアプローチ
- ◇English as a language of international communication
- ◇世論形成と環境
- ◇感性を育む教育について、考える
- ◇アフリカに学ぼう

学生自治会・学生団体紹介

学生自治会

今年5月の選挙で、以下のとおり役員が決定しました。

会長	社会福祉学科2年	長野 正 康
副会長	看護学科2年	佐藤 みどり
副会長	理学療法学科2年	三上 綾 子
書記	理学療法学科2年	山中 有 貴
会計	社会福祉学科2年	佐々木 茂 伸
庶務	看護学科2年	小丹枝 賢

学生団体

ミュージックサークル

- 代表者/中島 郁世 (看護学科2年)
- 顧問/鞠子 英雄
- 音楽を楽しむことを目的にしています。合唱練習、音楽鑑賞、バンド練習を行います。

バレーボールサークル

- 代表者/折田 円 (看護学科2年)
- 顧問/田崎 博一
- 週2回、体育館で楽しく活動しています。バレーボールが好きな人ややってみたいと思う人はぜひ一度やりに来て下さい。

サッカーサークル

- 代表者/林 学 (理学療法学科2年)
- 顧問/スコット・ベスティー
- サッカーの1チームには11人必要です。でもサッカーサークルは10名の部員しかなくて試合もできません。一緒にサッカーをする人待っています。

SNOWサークル

- 代表者/野澤 めぐみ (看護学科2年)
- 顧問/嵯峨井 勝
- 10月の大学祭と冬にしか活動していないサークルです。名前を“スキーサークル”とよく書き間違われるのでちょっと悲しいです。



大学祭における「北海道・東北スキー場情報」展示

オールスターチーム

- 代表者/伊東 由理子 (社会福祉学科2年)
- 顧問/八戸 宏
- ボランティアに興味を持っている学生は多くいると思います。ただやる機会やきっかけがないだけなんだよね。私たちと楽しく活動しましょ!!!



大学祭における「ホットドッグ等販売」

テニスサークル

- 代表者/宇佐見 大輔 (社会福祉学科2年)
- 顧問/アラン・ノールズ
- 大学生といたらテニスでしょう!! テニスサークルでは、毎週木・土曜日の練習の他にも各種イベントを取り揃えて皆さんの入部をお待ちしています。

バスケットサークル

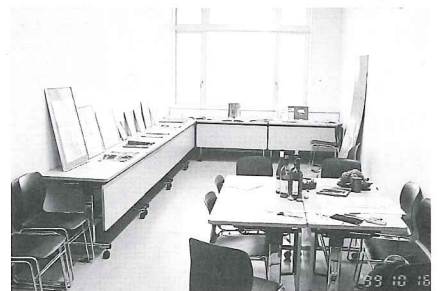
- 代表者/山口 智恵子 (看護学科2年)
- 顧問/角濱 春美
- 現在、週3回体育館で休まず楽しく活動しています。男女とても仲が良く、バスケ好きが集まっているので、パワーあふれる元気なサークルです。



大学祭における「3ON3大会」

芸術サークル

- 代表者/小林 三千代 (看護学科2年)
- 顧問/堀口 由美子
- 書類上の部員が多い芸術サークルでは、常時部員を募集しています。また、責任者が頼りにならないので、新責任者希望者も大歓迎!! です。



大学祭における「作品展示」

食文化研究会

- 代表者/吉岡 なみ子 (看護学科2年)
- 顧問/大関 信子
- 食文化を通して、視野を広め、情報交換や手づくりして
みることにより、相互理解をはかることを目的として
います。

目指せ神宮

- 代表者/間所 昌嗣 (理学療法学科2年)
- 顧問/伊藤 日出男
- 現在、部員数約20名で活動しています。活動日は水・
金の週2日で、保健大の中で最も強いサークル!! 未だ
対外試合では負け無し。そんなサークルに是非ア・ナ・
タも♥

Light Music サークル

- 代表者/花澤 利樹 (看護学科2年)
- 顧問/ノエル・フクシマ
- こんにちは!! LIGHT MUSIC サークルです。バンド
やりたい人大募集!! みんなでバンドを組んで参加し
よう!! 大学祭を盛り上げましょう!!

World Volunteer Circle

- 代表者/榊原 敬愛 (社会福祉学科1年)
- 顧問/千葉 多佳子
- 私達“World Volunteer Circle”は、国際的な視野で
ボランティア活動を行っています。来年2月頃にはイ
ンドのカルカッタに行く予定をしています。

バドミントンサークル

- 代表者/成田 彰宏 (看護学科1年)
- 顧問/鳴井 ひろみ
- ①バドミントンを楽しむこと、②バドミントンを通し
て心身の健康を保ち、友人との交流を深め、大学生活
を有意義なものにすること、③バドミンントンの技術
を磨き、バドミントンをより楽しく安全にできるよう
することを目的としています。



ボランティアサークルさんきゅ

- 代表者/氏家 太郎 (社会福祉学科2年)
- 顧問/木幡 洋子
- 先日、「障害者の方が一人暮らしを始めるので、家具や
電化製品を譲ってください」というお願いをしました
が、この間無事引越しが終わりました。協力してくだ
さった皆さんありがとうございました。

ダンス実践研究会

- 代表者/尾毛川 知乃 (社会福祉学科1年)
- 顧問/浅田 豊
- 仲間・体力作り、ダンス技術の向上を目的としていま
す。いろいろなダンスへの挑戦、大学祭等での発表、
講師指導によるレッスン等を活動内容とします。

収集ボランティア&映画サークル「これくたーず」

- 代表者/石戸 俊臣 (社会福祉学科1年)
- 顧問/藤田 智香子
- 使用済み切手、テレカ、プルタブなどを集め、社会福
祉に役立てるサークルです。映画サークルも兼ねてい
ます。部員6名なので募集してまーす。

日本文化研究会

- 代表者/徳光 美幸 (看護学科1年)
- 顧問/中村 恵子
- 名前の通り、日本文化を体験して、学ぶサークルです。
華道、茶道、着付けなどを行う予定です。できたば
かりですが、会員は15名ほどいて、顧問の先生共々仲良
く活動しています。今年は、もう浴衣の気付けをマス
ターしました☆☆☆とってもためになるので、興味
のある方はぜひどうぞ。

跳人同好会

- 代表者/三上 穂々乃 (看護学科2年)
- 顧問/上泉 和子
- 青森の郷土文化を知り、かつ、とても楽しく活発に“青
森ねぶた祭り”に参加できる期間限定のお祭りグル
ープです。



ねぶた祭りの後で



広田局長を偲んで

昭和16年12月10日北海道生まれ。
昭和39年4月、県職員として採用され、西北地方福祉事務所に勤務。以後、原子力環境対策室長、医務課課長、企画部次長等の要職に就く。
平成10年4月、健康福祉部理事、平成11年4月、青森県立保健大学初代事務局長として、大学の開学及び運営に携わる。
平成12年6月26日、御逝去。

広田捷局長を偲んで

学長 新道幸恵

広田局長とは、開学1年前に大学開設準備室にその直接の総責任者である理事として就任された時以来、「県立保健大学の開学と発展」という同じ目的に向かって共に努力してきました。思い起こせば、この約2年間は、本学にとっては、変化が大きく課題が山積みで、お互いに個人的なことに心を砕くゆとりもなく過ごしてきた日々でした。

開学後わずか1年と2ヶ月余りの早すぎる彼岸への旅立ちでした。しかし、本学の色々な事に局長の足跡が残されています。本学の教員組織や事務組織は準備室時代のご努力の成果です。特に教員人事に関しては、申請の直前まで関係者やご本人との面談、交渉に奔走して頂きました。私も一度だけ、ご一緒に先方に出向いたことがあります。その折りは、局長の人脈の広さを知ると同時に、人物評価の的確さと暖かさを知る機会にもなりました。

ご冥福を心からお祈り致します。

広田さんのこと

学生部長 伊藤日出男

昨年の開学間もない頃、広田さんと学生の卒業後の進路について語り合ったことがありました。それがきっかけとなって、卒業生の職域開拓を兼ねた共同研究が、下北地域を対象に行われるようになりました。

準備室時代の広田理事に対する私の印象は、「冷静かつ果敢に物事を処理する人」でした。事実、彼の決断によって何度か対外的な難問題を処理できました。開学に至る経緯について語るには、未だ日が浅く、広田さんも開学直前までの多くの苦労話を誰に語り継ぐこともなく、胸の内にしまい込んだまま逝かれたことでしょう。それにしても、彼の長いキャリアの最後を飾ることになった保健大学の発展を、もう少し見て欲しかったと思います。

いま、私はイギリスに滞在しています。青森を離れる前に、海外出張のご挨拶を兼ねて病室を訪ねました。「先生、よかったですね。存分に楽しんできて下さい」と、苦しい息遣いながら満面に笑みを浮かべて、私を見送って下さった姿が思い浮かびます。

開学にあたり、大変な御苦労があったと聞き及んでいます。学生も2学年になり若い生命力で溢れています。これも、局長の御尽力のおかげです。ありがとうございました。
(教務学生課/石岡俊一)

あの日、学長等と病院に駆け付けた際、「おおつ」と、大きく息を吐きながら静かに手を差し出し、握手をして頂きました。何を物語っていたのか、今思えば複雑な心境です。ご冥福をお祈りします。

(教務学生課長/伊藤貞一)

広田局長とは環境保健部時代から企画部、健康福祉部と局長の後を追いかけてきました。節目節目でいつもお世話になっていたような気がします。

(企画情報課/打越誠二)

広田局長と親しく懇談したのは、平成11年10月12日「侍」。酔ったときの巻舌と関西弁がなつかしい。

(企画情報課長/小野勝義)

青森の地に来て間がないとき、同じ北海道出身ということで、広田局長に気軽に声をかけていただいたことを思い出します。ありがとうございました。

(企画情報課/小野由美)

開学までの大変な時期をリードいただいた記憶からなのか、大学に来てつい「理事」と声をかけそうでした。

(教務学生課/工藤 光)

平成10年4月、企画部から広田・打越・古跡の3名が異動になりました。こんなとき あのひときっと こういうと かんがえながら ぜんしんをする

(企画情報課/古跡健将)

私の理想の行政マンであった局長と、こんなに早くお別れすることになるとは、思いもしませんでした。最後の日の朝、握手をしてくれたあの手の感触をいつまでも忘れません。合掌！

(次長/小山石康雄)

再入院の際、お供させていただいた私へのお心遣いのお言葉が何よりも印象に残っています。大学校歌作成の際も交渉のため先頭に立って頂きました。

(教務学生課/佐々木真也)

大学は7つ目の職場ですが、縁あって2回職場をご一緒させていただきました。本当に御指導ありがとうございました。

(教務学生課/須藤 浩)



平成11年6月、開学記念式典

開学の準備のため、日々奔走されていたお姿が今も臉に焼き付いています。本当にお疲れさまでした。

「どないでっか〜」と微笑みながら部下のことを気遣ってくれた局長、お世話になりました。どうぞ安らかにお休みください。

(総務課/苔米地 満)

どのような局面にあっても部下を信頼し、笑顔をやさなかつた広田局長の指導力に感謝いたします。

(総務課長/長谷川俊行)

いつもきびきび歩かれていらしたお姿が思い出されます。真っすぐに伸びたその背をいつまでも忘れません。

(総務課/古林素子)

文書の決裁をおおぎに行くと、いつもにこやかに話しかけて下さった広田局長。笑顔の素敵な局長と、もっとお近づきになりたかったです。

(総務課/毛内 博)

温厚な性格で正義感が強く、自分のことよりも部下の心配をしてくれる人でした。私が仕事上のことで壁に当たったときも、よく話を聴いていただきました。入院直前まで大学の将来のことを思い続けたありし日のお姿を決して忘れずに頑張りたいと思います。

(総務学生課/横山 哲)

受験生の時も学生になってからも穏やかに見守ってくださっておられました。挨拶をした時は気の利いた一言アドバイスを頂きました。今でもその存在に変わりはありません。

心よりご冥福をお祈りいたします。

(看護学科2年/熊谷昌子)

広田事務局長ご逝去とのお知らせに、信じられない思いでございます。謹んで哀悼の意をささげます。

(社会福祉学科2年/学生自治会会長/長野正康)

人事異動

＜新任・転入等＞



看護学科 助教授
城島 哲子 (ジョウシマ ノリコ)

地域看護学を担当。保健婦なので仕事でも私生活でも“地域”に対する好奇心でいっぱいです。今は週末のドライブで北国の自然を楽しんでいます。



看護学科 講師
坂江 千寿子 (サカエ チズコ)

愛猫を連れて青森へ。ふきのとうの4月、桜並木の5月、晴天の6月、豊かな海山の幸、あの美しい風景のように過ごせたら…。



看護学科 講師
鳴井 ひろみ (ナルイ ヒロミ)

大学院でがん看護、終末期看護の領域のテーマで勉強してきました。今後は地域の貢献を視野に入れ、学生のみならず、地域の方々と一緒にこれらについて語り合い、深めていきたいと思っています。



看護学科 助手
阿部 俊枝 (アベ トシエ)

私自身が何者であり、この大学で何をやる人であるかを、誰にでも明確に言葉で伝えられること！それが当面の抱負です。



看護学科 助手
木村 恵美子 (キムラ エミコ)

助手の仕事は初めてなので文字通りばたばたしています。家でも愛犬の世話で大忙し。走り回れる位健康であることに感謝しています。



看護学科 助手
吹田 夕起子 (スイタ ユキコ)

臨床7年、看護行政7年の経験がありますが教育に携わるのは初めてです。学生との関わりを通して共に学んでいきたいと思えます。



看護学科 助手
高橋 佳子 (タカハシ ヨシコ)

皆様にお世話になりながら、ようやく慣れてまいりました。こつこつ・あせらず・元気がよくがんばっていききたいと思います。



看護学科 助手
中村 博文 (ナカムラ ヒロフミ)

はじめまして！助手の中村です。千葉の温かい土地から北国へ・・・今から冬がとっても心配ですが、ワクワクしています。



看護学科 助手
福井 幸子 (フクイ サチコ)

着任して3ヵ月、悪夢のような日々が続きましたが、周りの皆様のお陰で何とか頑張っています。基礎の皆様、本当にありがとうございます！



看護学科 助手
三津谷 恵 (ミツヤ メグミ)

4年ぶりの青森、そして保健大学で看護教育の仕事に携わっている。毎日が新しい発見と看護のすばらしさを実感している。



理学療法学科 教授
福田 道隆 (フクダ ミチタカ)

在任中は皆様のご指導の下にリハビリ医学・障害者スポーツのEBMの確立をめざし教育・研究・診療に励みたいと思います。



理学療法学科 助教授
秋元 博之 (アキモト ヒロキ)

人体構造機能学と医学概論も担当していますが、本職は整形外科です。整形外科疾患についての質問、相談受け付けております。



理学療法学科 助教授
尾崎 勇 (オザキ イサム)

講義の準備に追われている毎日ですが、そろそろリサーチ(趣味?)の時間をもちたいと思っています。宜しくお願いします。



理学療法学科 助手
齋藤 圭介 (サイトウ ケイスケ)

早く一人前の教官になるよう努力すると共に、保健福祉領域での理学療法について研究していきたいと考えています。宜しくお願いします。



理学療法学科 助手

李 相潤

(リー サンユン)

アンニョンハセヨ、S.Leeです。これから皆さんと一緒に前進したいと思います。いつでも気軽に話し掛けて下さい。



社会福祉学科 教授

内山 三郎

(ウチヤマ サブロウ)

若い時代に広く学び、自分を狭い世界に閉じこめないことです。共に学び努力しましょう。



社会福祉学科 教授

大和田 猛

(オオワダ タケシ)

口先だけ達者な評論家のようなソーシャルワーカーではなく、誠実に実践し、行動する責任感の強いソーシャルワーカーを養成したいと願っています。よろしく。



社会福祉学科 講師

杉山 克己

(スギヤマ カツミ)

正直なところ「東北」の多様さに驚いています。対人援助職を目指す方々には「ひと」の多様さを受け止めて欲しいと自戒を込めて…



外国語学臨時講師

コックス・エリザベス

Being my first trip to Japan, I felt very happy and interested to discover "Japan" and in particular, Aomori. I have found the city and its surrounding areas to be very picturesque. Japanese food is very delicious and many people I have met have been very friendly and helpful towards me. I have enjoyed my time with the students very much. I hope I can contribute to their English development in a positive way.



事務局 総務課

白戸 一郎

(シロト イチロウ)

今のところ仕事に追われる毎日だが早く巻き返し、仕事を追う姿勢にと思うこの頃…目下の活力源は週1~2回のウェイトトレーニング。



事務局 総務課

大谷 順一

(オオタニ ジュンイチ)

「おおたに」と申します。今年で41歳になります。趣味は釣りで、市内の岸壁で竿を振っていますので、見かけたら声をかけてください。



事務局 企画情報課

木村 理

(キムラ オサム)

これまで福祉部畑ばかり歩いてきました。ケースワーカー出身者にとって大学は違う世界の連続で、新人の頃の気分を味わっています。



事務局 総務課

鹿内 亮一

(シカナイ リョウイチ)

ここに来る前は児童自立支援施設で児童の「指導」をしていました。保健大学では皆さんの「指導」を受けながら頑張るつもりです。



事務局 企画情報課

石井 僚

(イシイ ツカサ)

社会人1年生。24歳。芝居と朗読が好きです。一緒に観に行く誰かを探しつつ、人知れず低音の発声法など研究しています。

<昇任等>

(12年4月)

学 長	新道 幸恵 (教授を兼ねる)
事務局教務学生課	横山 哲 (総括主査→主幹)
事務局 "	石岡 俊一 (主査→総括主査)
事務局 "	小笠原 徹 (主事→主査)
事務局総務課	毛内 博 (主事→主査)

<転出等>

(12年4月)

八戸児童相談所	千葉 文明 (事務局総務課から)
五所川原出納事務所	太田 克志 (事務局企画情報課から)
青森県立中央病院	中川 博行 (事務局総務課から)
村上病院	佐藤 武 (理学療法学科から)

編 集 後 記

《活彩！保健大学だより》第2号(新入生歓迎号)をお届けいたします。この4月で学生数は161名から325名と2倍になりました。一期生に後輩ができました。数百年の歴史のある大学でも開学当初は同じ風景が見られたことでしょう。どんな大河でも源流は一筋の流れから始まるように。開学記念日に行われた日野原重明先生の講演内容を掲載しました。当日聞けなかった人はお読み下さい。本号から「教室(領域・分野・職域等)紹介」という欄を設けることになりました。各学科等の分野等を順次紹介する欄です。新しいことを発見する欄となることが期待されます。広報委員会に事務担当が2名新たに加わりましてので

ご紹介します(後記)。本誌をより良いものにするために、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ下さるよう御願いたします。

(広報委員長／竹森幸一)

◎広報委員会委員

竹森幸一、羽入辰郎、勘林秀行、八戸 宏、伊藤貞一

◎専門部会(広報記録担当)

井澤弘美、田中克枝、佐藤秀一、田中志子

◎事務担当

大谷 順一(対外広報担当)

工藤 光(入試広報担当)

佐々木真也(学内広報誌、広報委員会事務担当)